

十勝岳

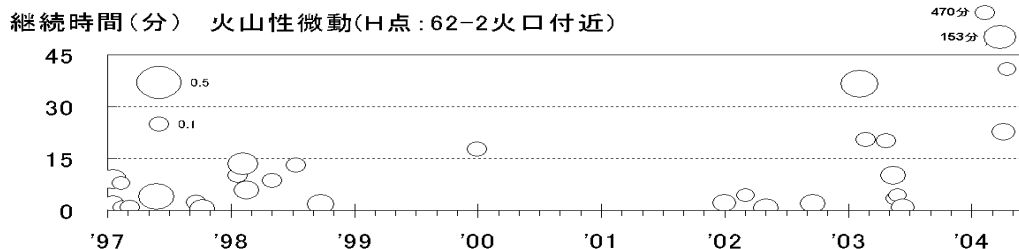
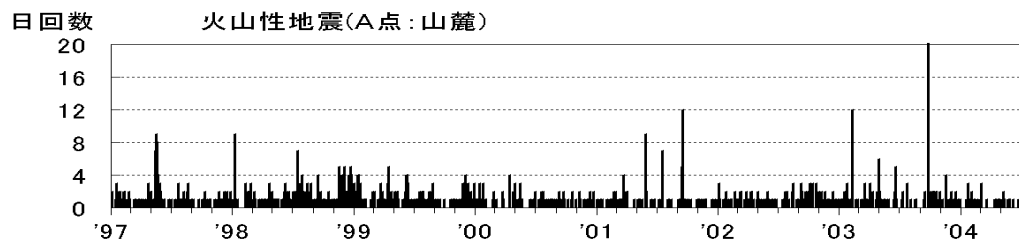
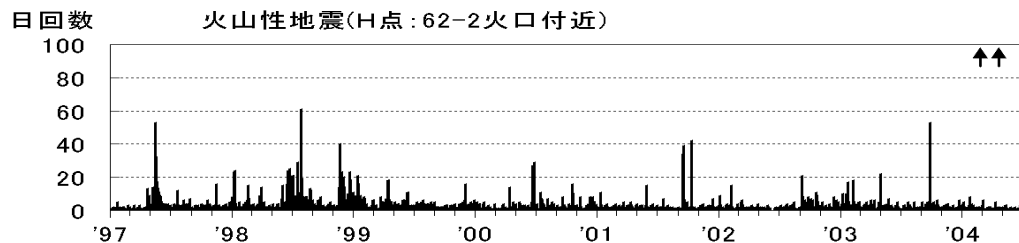
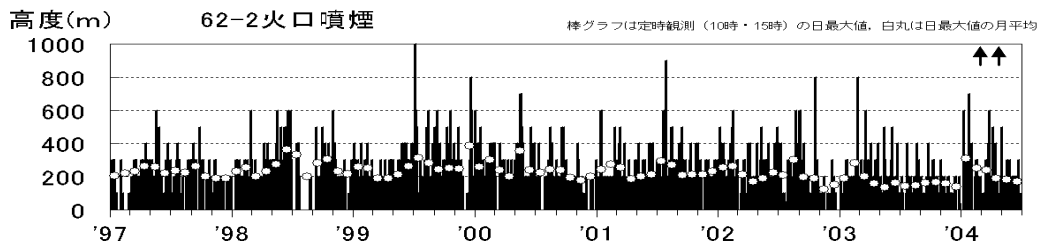
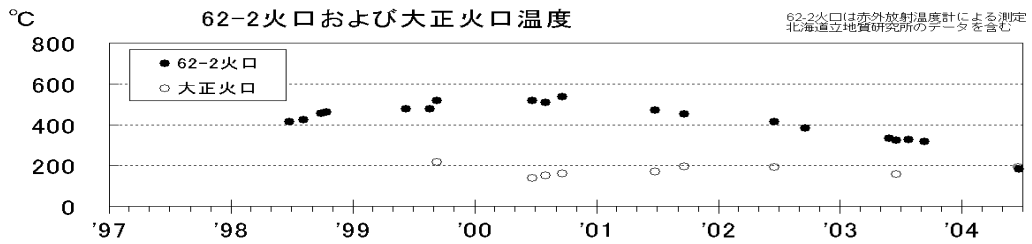
1 概況

火山活動はやや活発な状態が続いています。

62-2火口の噴煙活動は依然活発な状態で経過しています。4月19日以降、振幅の小さな火山性微動や有色噴煙は観測されていませんが、同様な現象は今後も繰り返し発生する可能性があります。

2 噴煙の状況

62-2火口の噴煙は白色ですが、量は多く、噴出の勢いも強い状況が続いています。噴煙の高度は火口縁上おおむね200~300mで経過しました。



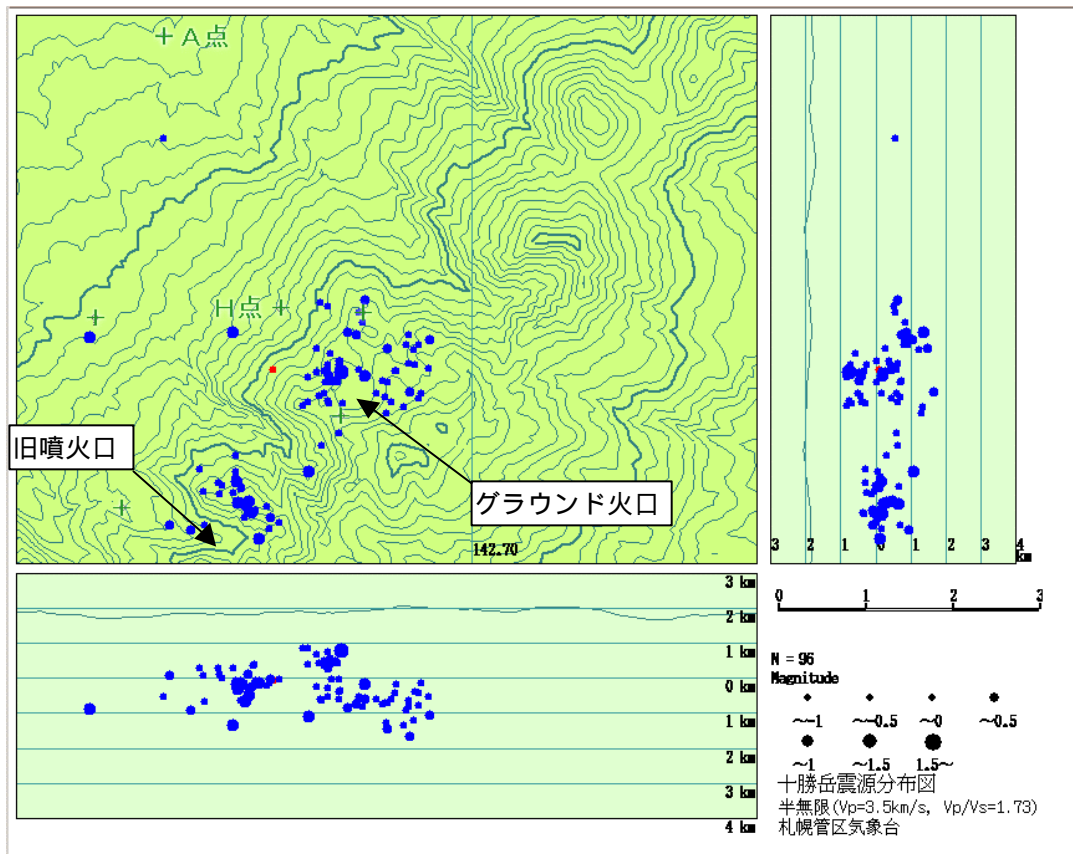
最近の火山活動経過図(1997年1月1日~2004年6月30日) 印は噴火

3 地震および微動の発生状況

火山性地震の回数は1日あたり0~3回で少ない状態が続いています。火山性微動は4月19日以降観測されていません。

地震・微動の月回数 (H点:火口付近の観測点 A点:山麓の観測点)

2003~2004年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
地震回数H点	35	26	106	62	36	36	41	17	30	23	26	12
地震回数A点	9	5	40	16	9	12	7	6	5	5	7	2
微動回数H点	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0



十勝岳の震源分布図 (丸印:震源、+印:地震観測点)

赤丸は今期間(2004年6月1日~6月30日)に求めた震源を示しています。

青丸は前期間までの10か月間(2003年8月1日~2004年5月31日)に求めた震源を示しています。

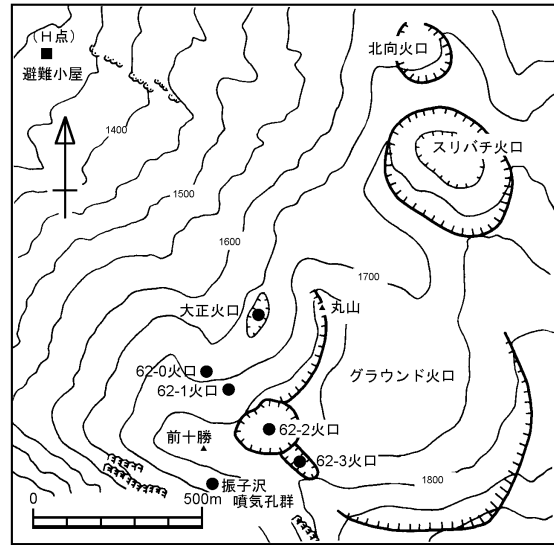
過去の震源分布は大きく分けてグラウンド火口周辺と三段山~旧噴火口周辺の浅部(海拔付近)に集中しています。今期間の震源もこれらの領域内に分布しています。

4 調査観測の結果

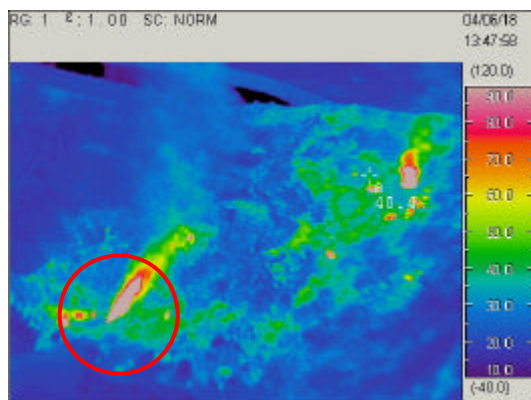
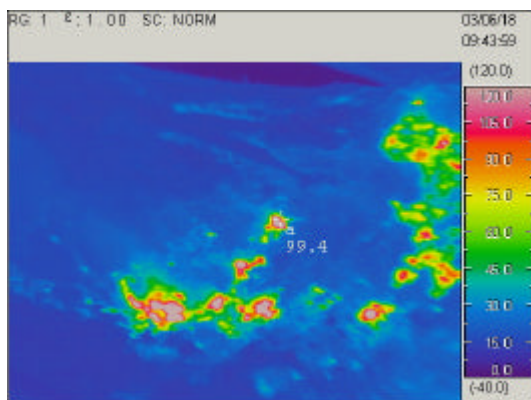
6月17~21日に調査観測を実施しました。62-2火口では高温状態が続いており、西側火口底には噴出の勢いの強い噴気孔が存在していました。その他の火口は、昨年9月の状況と比べて大きな変化はありませんでした。

【62-2火口】

活発な噴気活動が続いており、火口縁では強い刺激臭が認められました。1998年から赤外放射温度計*による温度観測を続けてきた北西側内壁の噴気孔は、噴気が弱まり温度は約180に下がっていました。一方、西側火口底には、今年4月の調査時と同様に、透明な火山ガスを勢いよく噴出する非常に活発な噴気孔が存在しており、北西側内壁の噴気孔に比べてかなりの高温状態にあると推定されます。



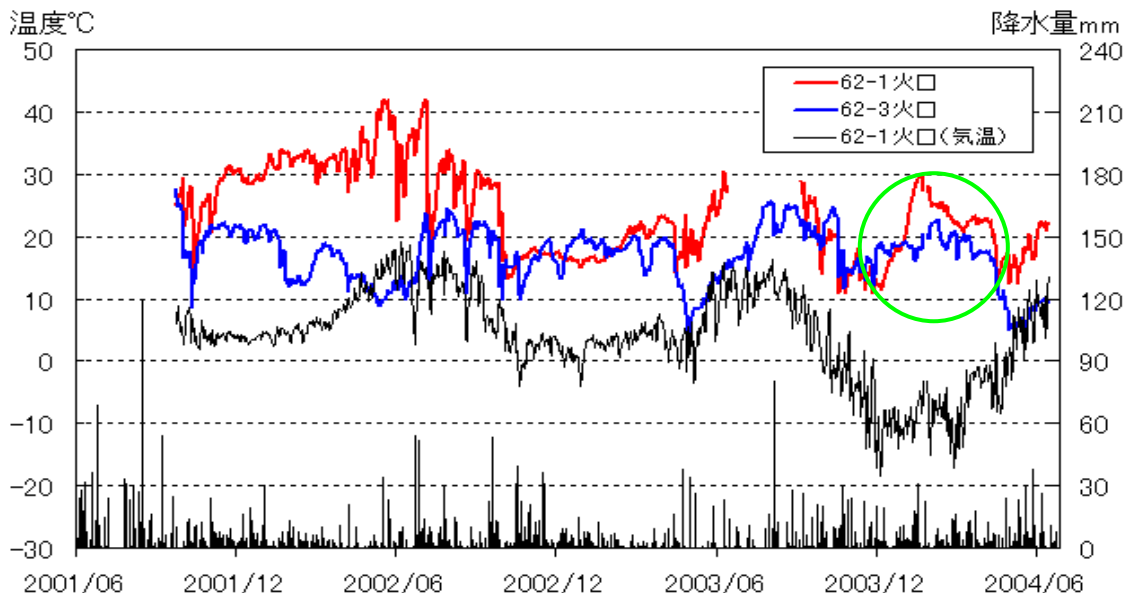
十勝岳火口周辺図



赤外熱映像観測による62-2火口の表面温度分布 西側内壁の活発な噴気孔
(左:2003年6月18日 右:2004年6月18日)

【62 火口周辺の地熱域】

62-0 火口、62-1 火口、62-3 火口、振子沢噴気孔群などでは弱い噴気が認められましたが、赤外熱映像装置* による観測では高温部分の拡大や新たな地熱域は認められませんでした。地中温度の連続観測によると、62-1 火口で昨年 12 月からわずかな温度上昇が認められました。同時期に繰り返された火山灰噴出活動に対応した熱活動の高まりを示している可能性があります。その後、62-1 火口の地中温度は今年 4 月以降には元に戻っています。



62-1 火口および 62-3 火口の地中温度（深さ 50cm）の推移（2001 年～2004 年）
 昨年 12 月から今年 4 月にかけて 62-1 火口で温度上昇が見られた（ で示した部分）

【大正火口】

東側火口壁上部のやや活発な噴気孔は、昨年 9 月と同様に周辺に新鮮な硫黄昇華物が付着していました。噴気の最高温度は約 190（昨年 9 月約 160）で、噴気の状態や変色域等に大きな変化は見られませんでした。



大正火口東壁上部の噴気孔

【旧噴火口】

沸点程度の地熱活動と温泉の湧出が続いています。赤外熱映像装置* による観測では高温部分の拡大は認められませんでした。

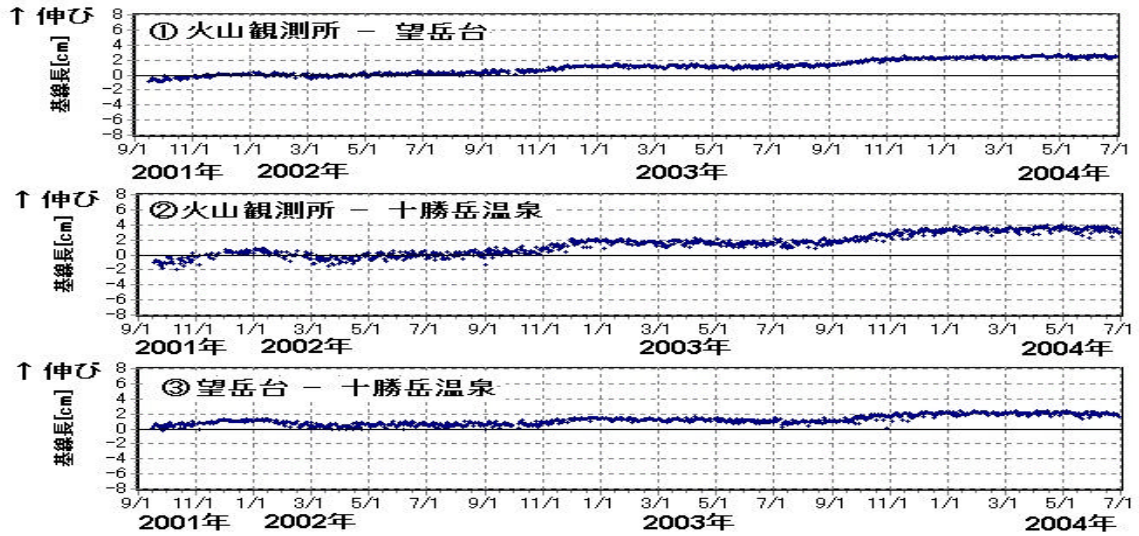


旧噴火口（東側から撮影）

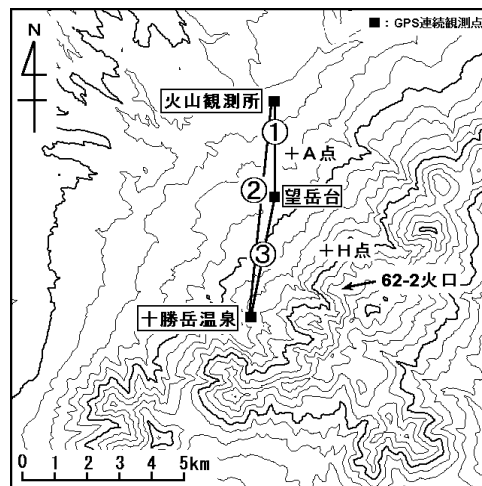
* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

5 地殻変動の状況

西麓でのGPS連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化(2001年9月13日~2004年6月30日)



6 上空からの観測結果

6月2日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、62-2火口の噴煙活動は活発で、白色の噴煙が勢いよく噴出していましたが、噴煙に火山灰が混じっている様子はありませんでした。大正火口からは弱い噴気が見られましたが、大きな変化はありませんでした。62-2火口周辺のその他の火口の変色域などの状況にも大きな変化は見られませんでした。